



子供たちに「自己肯定感」を育もう！

校長 井上 貴文

今年の甲子園は神奈川県慶応高校の107年ぶりの優勝で幕を閉じました。また、本県代表の神村学園も県勢17年ぶりのベスト4進出という素晴らしい成績でした。高校野球や世界レベルでのスポーツ大会などは、子供たちに多くの感動とともに夢と希望をもたらす貴重な機会ですので、是非とも興味をもって見てほしいと思います。特に慶応高校については、選手の主体性を伸ばす「考える野球」「楽しむ野球」が話題となりました。それは、会社員を経験し慶応義塾幼稚舎教諭を務める森林貴彦監督の「野球を離れたときにきちんと勝負できる人間になっていることが大事」という教育理念によるものです。

さて、1学期の反省をもとに2学期に向けて子供たちや学校の姿を思い描くとき、何事にもやる気をもって意欲的に取り組む子供たちであってほしいという願いがわいてきました。そのことにより子供たちは、毎日学校に楽しく通い、友達を大切にし、自分自身も勉学や体力づくりに積極的な気持ちで取り組むことができるのではないかと考えます。そのためには、子供たちに「自己肯定感」を育むことが必要です。

自己肯定感とは、自分自身に満足感を味わい、自分のことを肯定的に思える感覚です。自己肯定感が育つと、ポジティブに物事にチャレンジすることができ、失敗してもめげずに試行錯誤しながら解決に向かっていくことができます。また、コミュニケーション能力が高まり他者と良い関係を築くことができます。そして、この自己肯定感を育むためには、周りの大人の接し方が大きく影響するといわれています。



子供に自己肯定感を育むポイントを6点に整理します。学校・家庭・地域で子供とのコミュニケーションをとる際の参考にさせていただければ幸いです。

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| ★ 子供の話は肯定的によく聞いてあげましょう。 | 否定せず「受け入れられている」感覚を！ |
| ★ 子供に選択させる機会を作りましょう。 | 選択の結果を肯定的に受け入れましょう！ |
| ★ 子供に考えさせましょう。 | 意見を求められると承認欲求が満たされる |
| ★ 結果ではなく過程をほめましょう。 | 頑張ったことに満足感を持てるように！ |
| ★ 他の子供（兄弟姉妹を含む）と比較しない。 | 他人の目や評価を気にし過ぎないように！ |
| ★ 転ばぬ先の杖をつき過ぎないよう。 | 困ったときにはまず自分で考える環境に！ |

いよいよ2学期が始まります。2学期は、運動会や音楽学習発表会、持久走大会など目標を持って取り組み達成感を味わえる場面がたくさんあります。これらの取組の過程においては、その頑張りをおおいにほめてあげたいものです。子供たちがほめてほしいタイミングでタイムリーにほめることができれば、さらに効果があるのではないのでしょうか。

なお、学校創立50周年記念行事の準備も佳境に入っています。実行委員会を中心に準備を進めていただいています。子供たちにとって思い出に残る行事であってほしいと同時に、半世紀の歴史を経て新たな歴史を刻もうとする学校の姿に自分自身を重ね合わせ、これからの自分自身の在り方に思いをはせる記念行事になればさらに素晴らしいことだと思います。

この2学期が子供たちにとって充実した楽しい日々となることを願っています。

